

令和7年度自衛隊統合演習(実動演習)について

【演習の目的】

我が国防衛のための自衛隊の統合運用について演練・検証し、自衛隊の統合運用能力の維持・向上を図るために実施します。

【演習の沿革】

自衛隊統合演習は平成18年度統合運用体制移行後、18回目となります。実動演習と指揮所演習を毎年交互に行なっており、本年度は実動演習を実施します(実動演習は10回目)。

【演習の実施場所】

日本周辺海空域、自衛隊施設、米軍基地等において、様々な訓練を実施します。

【演習の実施期間】

令和7年10月20日(月)から10月31日(金)までの間(前後に準備期間及び撤収期間を設定)で予定しています。一部には夜間及び土日を含む演習となりますが、皆様の生活に支障がないよう十分に配慮いたします。

【演習の内容】

演習の目的に基づき、我が国防衛のための自衛隊の行動を演練します。このため、陸上、海上、航空作戦及び統合輸送等の全てを包含した総合的な演習となります。我が国防衛のための自衛隊の即応性を向上させることを通じ、皆様の安全・安心確保に資することができるものです。

令和7年度自衛隊統合演習(実動演習)について

➤ 空挺作戦



Two images showing military aircraft and paratroopers in action during a parachute operation.

➤ 統合防空ミサイル防衛訓練



Two images: one showing a missile being launched from a launcher, and another showing fighter jets in flight.

➤ 水陸両用作戦



Three images showing amphibious landing operations, including a tank on a beach, a helicopter on a runway, and a coastal base.

➤ 統合対艦攻撃訓練



Three images: two showing naval ships at sea, and one showing a military truck. Below the images is the text: ※九州及び沖縄におけるシミュレーション訓練を含む。

その他関連する訓練

- 統合後方運用
- サイバー攻撃等対処
- 協同基地等警備
- 宇宙作戦
- 統合電磁波作戦
- 統合通信



Two images: one showing a base at night with lights and another showing soldiers in formation.



令和7年度自衛隊統合演習(実動演習)の 鹿児島県における訓練について

本演習において鹿児島県内で実施する訓練は、

- ① 陸上作戦(協同基地警備訓練)
下甕島分屯基地

- ① 陸上作戦(自由降下・空挺降下・物料降下訓練)
種子島(前之浜降投下場)

- ② 水陸両用作戦(着上陸訓練)
奄美大島(奄美駐屯地、瀬戸内分屯地、用安海岸、宇検村総合グラウンド、節子海岸及び漁港、海自奄美
基地分遣隊及び周辺、ヤドリ浜、安脚場海岸、管鈍漁港及び公民館、江仁屋離島)
種子島(中山港、中央運動公園、中山海岸、熊野漁港、増田浦漁港、前之浜海岸)

- ② 水陸両用作戦(対機雷戦訓練)
種子島(中山港、中山海岸、熊野漁港、増田浦漁港、前之浜海岸)

- ③ 対着上陸作戦(水際障害構成訓練)
奄美大島(大和漁港、阿木名海岸、古仁屋港)

- ③ 対着上陸作戦(情報収集・警戒監視訓練)
奄美大島(赤木名港、あやまる岬観光公園、嶺山公園)

令和7年度自衛隊統合演習(実動演習)の 鹿児島県における訓練について

- ④ 航空作戦(統合防空ミサイル防衛訓練、統合対艦攻撃訓練)
鹿児島空港、奄美空港、徳之島空港

- ④ 航空作戦(高射部隊の機動展開訓練)
沖永良部島(沖永良部島分屯基地、大山野営場、大山グラウンド、伊延漁港、笠石海浜公園)

- ⑤ 機動分散運用(燃料給油、弾薬搭載等訓練)
鹿屋航空基地、鹿児島空港

- ⑥ 海上作戦(統合対艦戦闘訓練)
奄美大島(嶺山公園、大和村大棚、見晴らし広場、あかざき公園、梵論瀬崎公園、あやまる岬観光公園、笠利崎灯台下、太陽が丘運動公園、旧奄美空港、奄美パーク、グラウンドゴルフ場あまみティダパーク、崎原漁港南西私有地、崎原桜通り空き地、名瀬運動公園)

- ⑦ 統合後方運用(装備品輸送訓練)
奄美大島(名瀬港)

- ⑦ 統合後方運用(物資輸送訓練)
鹿児島港、沖永良部島(伊延港)

- ⑦ 統合後方運用(医療訓練)
奄美大島(太陽が丘総合運動公園、空自奄美大島分屯基地、奄美駐屯地、笠利崎灯台西側)

令和7年度自衛隊統合演習(実動演習)の 鹿児島県における訓練について

⑧ 統合電磁波作戦訓練

奄美大島(奄美大島分屯基地、奄美駐屯地、笠利崎灯台)

⑨ 統合通信訓練

種子島(種子島中央運動公園)

奄美大島(奄美駐屯地、奄美大島分屯基地、奄美基地分遣隊、瀬戸内分屯地)

を予定しています。

訓練内容は調整中であり、今後調整により変更の可能性があります。

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容

①陸上作戦(協同基地警備訓練)

陸上自衛隊及び海上自衛隊の部隊が自衛隊基地に展開し、各部隊と協同基地警備、防護施設の構築訓練、航空自衛隊装備の防護訓練、下甕島分屯基地におけるヘリコプターの飛行訓練を実施します。なお、実弾は使用せず、小型無人航空機は住宅密集地上空を飛行しません。

【期間】令和7年10月20日(月)～10月31日(金)のうち、5日間程度(準備・撤収期間を含む)

※夜間訓練、空包使用を含みます。

【参加部隊】陸上自衛隊:東北方面隊第6師団(UH-1×2機)

海上自衛隊:鹿屋基地警備隊、鹿屋システム通信分遣隊

航空自衛隊:第9警戒隊

訓練予定場所



人数等

| 基地 | 展開する部隊 |
|---------|----------------|
| 下甕島分屯基地 | 第44連隊等 約20名 |

訓練イメージ



協同警備訓練



防護施設の構築訓練



空自装備の防護訓練



小型無人航空機の飛行訓練



UH-1の飛行訓練

鹿児島県内(種子島)で実施を検討している訓練内容

①陸上作戦(自由降下・空挺降下・物料投下訓練)

陸上自衛隊の回転翼機(CH-47【P】)からの自由降下訓練(昼間又は夜間)及び物料投下訓練、航空自衛隊の輸送機(C-130H×1【P】及びC-2×2【P】)からの自由降下訓練、空挺降下訓練(昼間又は夜間)及び物料投下訓練を種子島(前之浜地域)で行います。

なお、訓練間、武器(小銃等)は携行しますが、空包等は使用しない予定です。

【期 間】令和7年10月20日(月)～10月23日(木):自由降下・物料投下訓練

令和7年10月24日(金)～10月27日(月):自由降下及び空挺降下訓練(予備日を含む。)

※前後約1週間程度の準備・撤収期間を予定

【参加部隊】陸上自衛隊:第1空挺団(約150名)、第1ヘリコプター団(CH-47×1)

航空自衛隊:第1輸送航空隊(C-130H×1)・第2・3輸送空輸隊(C-2×2)

訓練予定場所



訓練イメージ

空自C-2からの空挺降下



陸自CH-47からの自由降下



物料投下



鹿児島県内(奄美大島)で実施を検討している訓練内容

②水陸両用作戦(着上陸訓練)

艦艇による海上機動及び航空機による空中機動と連携した着上陸訓練を奄美大島沿岸部で実施します。

- 【期 間】令和7年10月22日(水)～10月25日(土) ※前後約1週間程度の準備・撤収期間を設定
- 【参加部隊】陸上自衛隊:水陸機動団ゴムボート(CRRC)×20艇、水陸両用車(AAV)×7両、小型シヨベル西部方面隊回転翼機(AH-64D)×2機
第1ヘリ団回転翼機(CH-47)×4機
- 海上自衛隊:掃海隊群護衛艦(ヘリコプター搭載護衛艦(DDH)、汎用護衛艦(DD))×3隻、輸送艦(LST)×2隻、エアクッション艇×4隻 ※沖合で訓練をします。
- 航空自衛隊:航空総隊航空機×2機、E-2(C)D×1機
- 【参加人員】陸上自衛隊:水陸機動団約250名
※昼間及び夜間訓練を実施します。

訓練予定場所



訓練イメージ



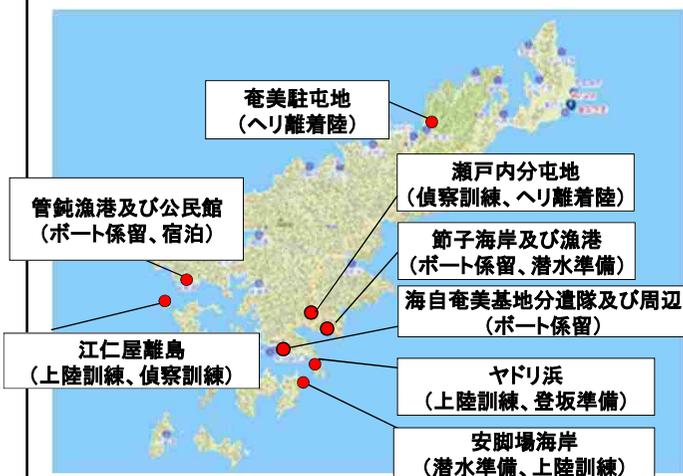
鹿児島県内（奄美大島）で実施を検討している訓練内容
 ②水陸両用作戦（着上陸訓練）

陸上自衛隊及び海上自衛隊の部隊が、海上自衛隊の護衛艦からポート、水泳による上陸訓練を実施し、島内において登坂訓練、偵察訓練等を実施後、UH-60JAにより、自衛隊施設へ帰隊します。

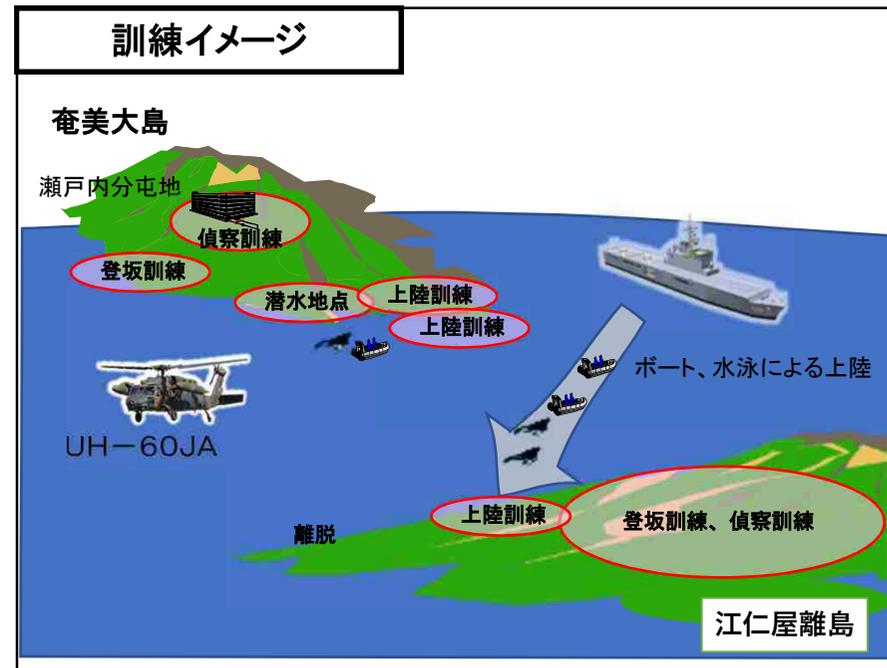
なお、偵察訓練では武器（小銃等）を携行し、空包等を使用する予定です。

【期間】令和7年10月15(水)～10月19日(日):機動展開、訓練準備
 令和7年10月20日(月)～10月26日(日):潜水訓練、ポート訓練、登坂訓練
 令和7年10月27日(月)～10月31日(金):上陸訓練、登坂訓練、偵察訓練
 【参加部隊】陸上自衛隊:陸上総隊（約60名程度、車両10両程度、ゴムポート5艇程度、UH-60JA3機程度）
 海上自衛隊:自艦隊（ポート2艇程度、護衛艦1隻）
 ※夜間訓練を実施します。

訓練予定場所



訓練イメージ



②水陸両用作戦(着上陸訓練)

艦艇による海上機動及び航空機による空中機動と連携した着上陸訓練を中種子町の沿岸部で実施します。

【期 間】 令和7年10月26日(日)～10月29日(水) ※前後約1週間程度の準備・撤収期間を設定

【参加部隊】 陸上自衛隊：水陸機動団ゴムボート(CRRC)×20艇、水陸両用車(AAV)×8両、小型ショベル西部方面隊回転翼機(AH-64D)×2機
第1ヘリ団(CH-47)×4機

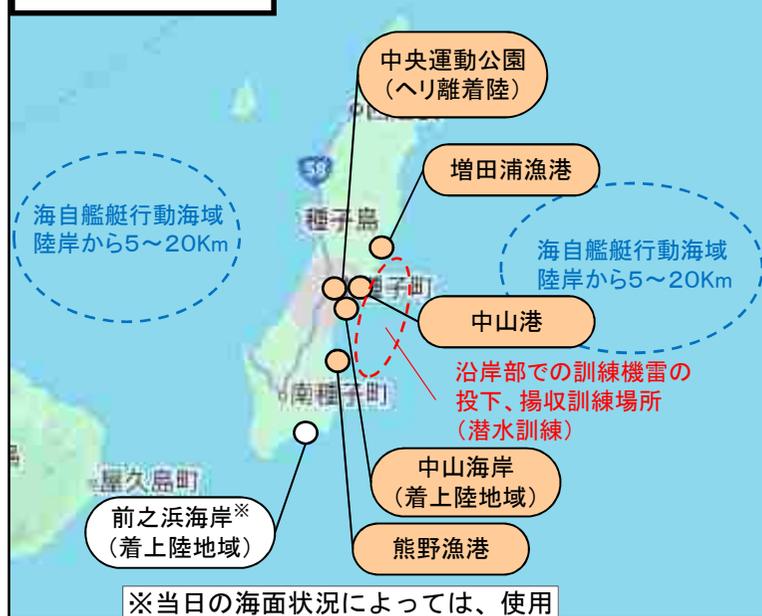
海上自衛隊：掃海隊群、護衛艦(ヘリコプター搭載護衛艦(DDH)、汎用護衛艦(DD))×3隻、輸送艦(LST)×2隻、エアクッション艇×4隻 ※沖合で訓練をします。

航空自衛隊：航空総隊航空機×2機、E-2(C)D×1機

【参加人員】 陸上自衛隊：水陸機動団約250名

※昼間及び夜間訓練を実施します。

訓練予定場所



訓練イメージ



鹿児島県内(種子島)で実施を検討している訓練内容

②水陸両用作戦(対機雷戦訓練)

海上自衛隊及び米海軍の掃海艦等が種子島中種子町の中山海岸沖に進出し、訓練用機雷(ダミー)を種子島周辺海域に設置するとともに、陸上自衛隊、海上自衛隊及び米軍による共同の水陸両用着上陸における対機雷戦の訓練を実施します。火気、爆発音を発生するものは使用しません。

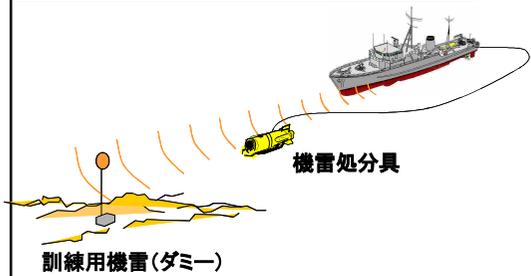
【期 間】令和7年10月20日(月)～10月25日(土) ※前後約2日程度の準備・撤収期間を設定
 【参加部隊】海上自衛隊:掃海艦×1、水中処分員(EODダイバー)×1チーム(4～6名)
 水中無人機(UUV)×1
 陸上自衛隊:水陸機動団 1個施設中隊(15名程度)、小型無人機(UAV)×1
 米 軍:掃海艦×1

訓練予定場所

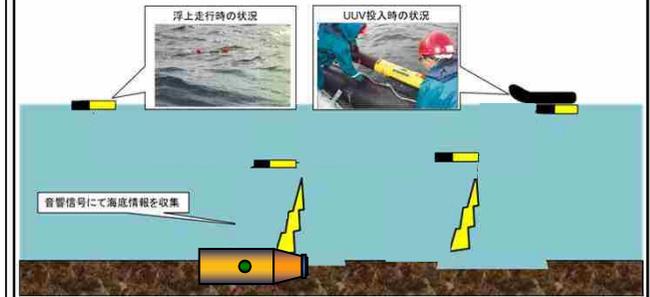


訓練イメージ

掃海艦艇による機雷掃討訓練



水中無人機(UUV) 搜索訓練



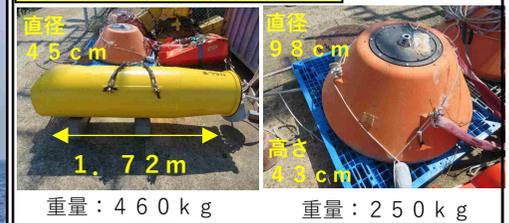
潜水員による機雷掃討訓練



掃海艦 × 1



訓練用機雷(ダミー)



③対着上陸作戦(水際障害構成訓練)

陸上自衛隊のダイバーによる水中偵察及び水陸両用車(敷設車)による水際障害構成訓練を実施します。その際、水際地雷(ダミー)の投下を計画しています。火気、爆発音を発生するものは使用しません。

あわせて、海岸部に汀線部障害を構築します。杭及び民生品等を設置しますが、火気、爆発音を発生するものは使用しません。

訓練期間中、隊員は島内の公園等に野営地を設置し、宿泊します。

【期 間】令和7年10月14日(火)～11月1日(土) ※夜間訓練及び前後の準備・撤収期間を含みます。

【参加部隊】陸上自衛隊:第5施設団(人員 45名程度、車両 15両程度)

訓練予定場所(調整中)

【凡例】

- : 訓練地域
- : 宿泊場所



訓練イメージ

水中偵察訓練



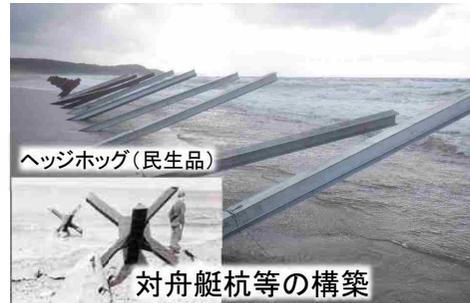
ダイバーによる偵察

水際障害構成訓練



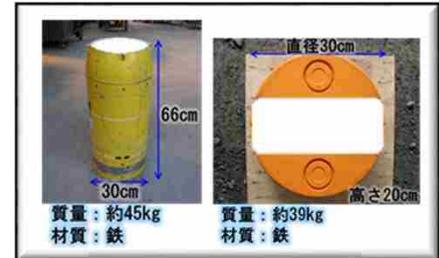
敷設車による水際地雷原構成

汀線部障害の構成



ヘッジホッグ(民生品)

対舟艇杭等の構築



質量: 約45kg
材質: 鉄

質量: 約39kg
材質: 鉄

水際地雷(ダミー)

鹿児島県内（奄美大島）で実施を検討している訓練内容
 ③対着上陸作戦（情報収集・警戒監視訓練）

奄美大島周辺海域において無人機航空機（スキャンイーグル（SEⅡ））の飛行訓練を実施します。
 なお、実弾は使用しないほか、人口密集地の上空は飛行しません。

【期間】令和7年10月19日（日）～10月31日（金） ※前後約1週間程度の準備・撤収期間を設定
 【参加部隊】陸上自衛隊：西部方面隊（西部方面情報隊、第8情報隊）
 【人員】人員：約50名、車両：20両
 【装備】無人航空機（SEⅡ） ※夜間飛行含む

離発着予定場所

| | |
|---|---------------|
| ① | あやまる岬 観光公園 |
| ② | 赤木名港 |
| ③ | 嶺山公園 |



訓練イメージ

発射機による無人機航空機の発射



無人機航空機の回収



鹿児島県内（奄美大島）で実施を検討している訓練内容
 ③対着上陸作戦（情報収集・警戒監視訓練）

奄美大島の赤尾木海岸東方側（奄美市）において、各観測器材及び小型無人航空機（スカイレンジャー）を使用して洋上目標に対する情報収集訓練を実施します。なお、実弾や爆発音を発生させるものは使用せず、小型無人航空機は人口密集地の上空を飛行しません。

- 【期間】令和7年10月19日（日）～10月31日（金） ※前後約1週間程度の準備・撤収期間を設定
 【参加部隊】陸上自衛隊：西部方面隊（第8師団：第12普通科連隊、第43普通科連隊、第8施設大隊、西部方面対舟艇対戦車隊、第8偵察隊 西方隷下部隊：西部方面情報隊、西方特科連隊 第14旅団）
 【人員】人員：約110名、車両：約40両
 【装備】無人航空機（スカイレンジャー等）
 観測機材（P23、マリンレーダ等）
 監視機材（V9、戦場監視カメラ）



鹿児島県内で実施を検討している訓練内容

④航空作戦(統合防空ミサイル防衛訓練、統合対艦攻撃訓練)

航空自衛隊の航空部隊等が四国沖で実施される統合防空ミサイル防衛訓練(侵攻する航空機等への対処)及び統合対艦攻撃訓練(侵攻する艦艇等への対処)に参加し、それぞれの対処要領について演練します。その際、航空自衛隊の基地が使用できない事態を想定し、鹿児島空港、奄美空港及び徳之島空港に一時的に退避・着陸し、燃料補給を実施します。なお、戦闘機は奄美空港及び徳之島空港において、着陸ではなく、連続離着陸訓練を検討しています。併せて、必要に応じ、地上支援部隊等の輸送のための輸送機の離発着を実施します。

【期 間】 令和7年10月20日(月)～10月31日(金)(準備・撤収期間を含む。)

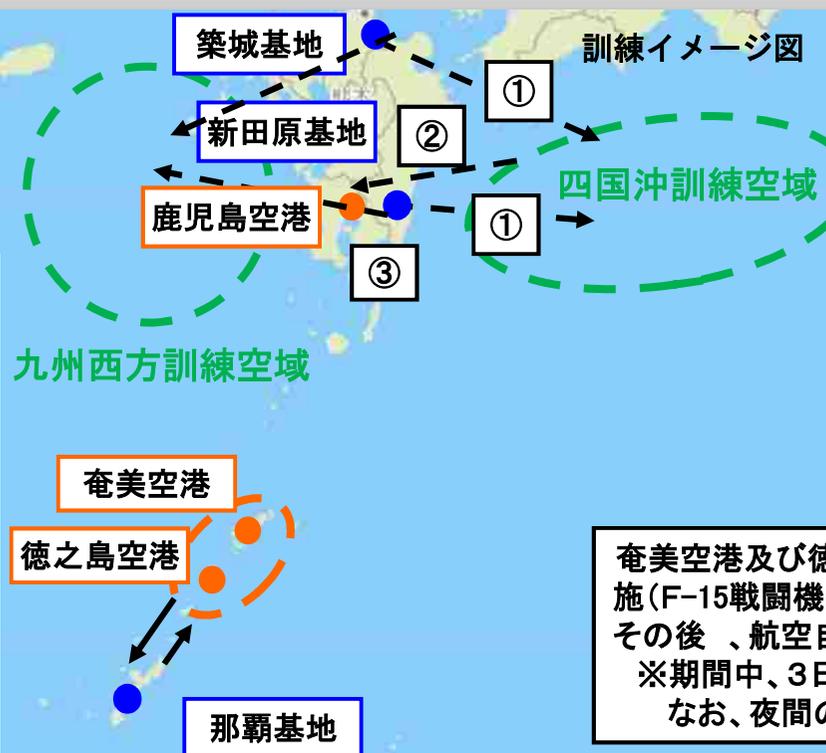
【参加部隊】 陸上自衛隊:高射特科部隊 海上自衛隊:イージス艦 航空自衛隊:航空部隊、航空警戒管制部隊、高射部隊、支援部隊等

【鹿児島空港展開計画】 人員約60名 F-15戦闘機×4機(最大)、車両器材等

【奄美空港展開計画】 人員約20名 F-15戦闘機×4機(最大)、T-4練習機×2機(最大)、車両器材等

【徳之島空港展開計画】 人員約20名 F-15戦闘機×4機(最大)、T-4練習機×2機(最大)、車両器材等

訓練予定場所



使用航空機



F-15×4機(基準)



T-4×2機(基準)

鹿児島空港

- ①航空自衛隊新田原基地等から四国沖に進出し、訓練に参加
 - ②四国沖での訓練後、または、各基地から鹿児島空港に一時的に退避(最大4機)し、燃料補給等を実施
 - ③再度四国沖の訓練に参加、または直接航空自衛隊の基地に帰投
- ※期間中、3日間程度日(1日あたり1回)の実施を計画しています。
なお、夜間の実施は計画していません。

奄美空港・徳之島空港

奄美空港及び徳之島空港に一時的に退避を実施し、燃料補給を実施(F-15戦闘機は離着陸訓練(最大4機)のみ)。T-4練習機は着陸)その後、航空自衛隊那覇基地に帰投します。
※期間中、3日間程度(1日あたり1回)の実施を計画しています。
なお、夜間の実施は計画していません。

鹿児島県内(沖永良部島)で実施を検討している訓練内容

④航空作戦(高射部隊の機動展開訓練)

航空自衛隊の高射部隊が、統合防空ミサイル防衛に係る航空自衛隊の任務遂行能力の向上のため、沖永良部島内において機動展開訓練を実施します。なお、実弾の使用はありません。

【期 間】令和7年10月20日(月)～10月31日(木)(基準) ※前後約1週間の準備・撤収期間を含む

【参加部隊】北部航空方面隊北部高射群(人員約50名、車両器材約25台等)

訓練予定場所



射撃統制装置

発射機



沖永良部島への移動はフェリー及び陸路(調整中)
島内移動は陸路を計画。

※ 訓練内容詳細については、調整中であり変更の可能性があります。

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
 ⑤機動分散運用(燃料給油、弾薬搭載等訓練)

海上自衛隊の航空機が、母基地の鹿屋航空基地が使用不可能になった状況を想定し、訓練期間中の一時的な拠点として、鹿児島空港で弾薬搭載等を実施します。

【期 間】令和7年10月20日(月)～10月31日(金)のうち、1～2日間(準備・撤収期間を含む)

【参加部隊】海上自衛隊:航空機(P-1)



鹿屋航空基地から弾薬等を輸送



民間空港で搭載検証



⑥海上作戦(統合対艦戦闘訓練)

地对艦ミサイル部隊が海上自衛隊艦艇をレーダーにより捕捉して実施する対艦戦闘訓練を実施します。なお、実弾、演習弾は使用しません。

【期 間】令和7年10月15日(水)～11月7日(金) ※訓練前後の準備・撤収期間を含む

【参加部隊】陸上自衛隊: 第2特科団、第2・5・7・8地对艦ミサイル連隊

人員 300名程度、車両 70両程度

海上自衛隊: 護衛艦×1、ゴムボート×2 ※周辺海域に展開

航空自衛隊: E-2C/D ※周辺空域に展開

訓練予定場所

| | |
|---|--------------------|
| ① | 嶺山公園 |
| ② | 大和村大榎 |
| ③ | 見晴らし広場 |
| ④ | あかざき公園 |
| ⑤ | 梵論瀬崎公園 |
| ⑥ | あやまる岬観光公園 |
| ⑦ | 笠利崎灯台下 |
| ⑧ | 太陽が丘運動公園 |
| ⑨ | 旧奄美空港 |
| ⑩ | 奄美パーク |
| ⑪ | グラウンドゴルフ場あまみティダパーク |
| ⑫ | 崎原漁港南西300mの道路脇私有地 |
| ⑬ | 崎原桜通り空き地 |



展開する装備品



陸自: 搜索レーダー (SRU)



陸自: 無線中継装置 (RRU)



陸自: 地对艦誘導弾 (SSM)

⑦統合後方運用(装備品輸送訓練)

民間船舶で宮城県から大分県を經由して、鹿児島県まで部隊及び装備品(弾薬(実弾)含む)を輸送する訓練を実施します。

【期間】 令和7年10月20日(月)～10月31日(金)(前後に準備期間及び撤収期間を設定)

※ 上記日程のうち、部隊及び装備品を民間船舶に搭載・卸下するため、名瀬港を使用。

【参加部隊】 陸上自衛隊:第4地对艦ミサイル連隊、第5地对艦ミサイル連隊、第8地对艦ミサイル連隊

その他 :民間船舶(壱岐対馬フェリー)

【輸送装備品等】陸自:88式地对艦誘導弾、小型トラック(誘導車)×2

【実施地域】 仙台塩釜港、大分港、名瀬港

訓練予定場所



訓練イメージ



壱岐対馬フェリー



陸自:88式地对艦誘導弾

- ・仙台塩釜港において民間船舶(壱岐対馬フェリー)に部隊(第4地对艦ミサイル連隊)及び装備品(88式地对艦誘導弾)を搭載します。
- ・大分港において同様に部隊(第5、第8地对艦ミサイル連隊)及び装備品(12式地对艦誘導弾)を搭載します。
- ・これらの部隊、装備品は奄美大島(名瀬港)において卸下します。その後、陸自瀬戸内分屯地まで機動し展開訓練を実施します。
- ・展開訓練実施後、往路の逆順で各駐屯地に帰隊し、仙台塩釜港に到着する予定です。

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容

⑦統合後方運用(物資輸送訓練)

PFI船舶で北海道から鹿児島県等を経由して、沖縄県まで部隊・装備品を輸送する訓練を実施します。なお、鹿児島港及び伊延港においても、部隊の乗下船及び装備品を搭載・卸下します。

【期間】令和7年10月18日(土)～10月31日(金) ※前後の準備期間及び撤収期間を含む

【参加部隊】陸上自衛隊:西部方面システム通信群

航空自衛隊:高射教導群、中部高射群、第2基地防空隊

【使用装備品】PAC3発射機(LS)、レーダー装置、燃料タンク車等

その他:PFI船舶(はくおう及びナッチャン)

【実施地域】鹿児島港・伊延港(他北海道、愛知県・沖縄の港湾を使用予定)

訓練予定場所

凡例

| | |
|------------|------------------|
| | |
| ← : はくおう往路 | ← : ナッチャンWorld往路 |
| ← : はくおう復路 | ← : ナッチャンWorld復路 |

訓練イメージ

| | | | |
|--------------|-------------|--------|--------|
| | | | |
| PAC3発射機 (LS) | レーダー装置 (RS) | 待機車 1号 | 燃料タンク車 |

【PFI船舶: はくおう】

- ・10月18日(金)、鹿児島港において、苦小牧港から乗船した空自部隊(第2基地防空隊)を卸下するとともに、陸自部隊(西部方面システム通信群)を搭載し、石垣港まで輸送する訓練を実施します。
- ・10月31日(金)、鹿児島港において石垣港から帰港した陸自部隊(西部方面システム通信群)を卸下します。

【PFI船舶: ナッチャン】

- ・10月23日(木)、伊延港において苦小牧港から乗船した空自部隊(第9高射隊)を卸下します。
- ・10月27日(月)、伊延港において苦小牧港に帰港するため空自部隊(第9高射隊)を乗船させるとともに、29日(水)、鹿児島港において同じく苦小牧港に帰港する空自部隊(第2基地防空隊(往路ははくおうを使用))を乗船させます。

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容

⑦統合後方運用(物資輸送訓練)

鹿児島港に係留した海上自衛隊の護衛艦に対し、佐世保弾薬整備補給所(佐世保市)から輸送した弾薬を搭載する訓練を実施します。

【期 間】 令和7年10月20日(月)～10月31日(金)のうち、2～3日間(準備・撤収期間を含む)

【参加部隊】 海上自衛隊:佐世保弾薬整備補給所(約10名)、自衛艦×1隻

訓練予定場所

【凡例】茶線:陸路(弾薬)



訓練イメージ



海自弾薬の鹿児島港までの輸送

鹿児島港



弾薬の護衛艦への搭載

⑦統合後方運用(医療訓練)

奄美大島において、傷病者の治療及び搬送並びに医療資材を航空機から投下する訓練を実施します。

【期 間】令和7年10月23日(木)～10月29日(水)

【参加部隊】共同の部隊:統合作戦司令部

陸上自衛隊:陸上総隊、CH-47×2機

航空自衛隊:航空支援集団、C-130H×1機

人員約30名

訓練予定場所

※医療訓練場所:太陽が丘総合運動公園北側地域、空自奄美大島分屯基地及び陸自奄美駐屯地

資材投下場所:笠利崎灯台西側



- ・奄美大島において医療訓練を行い、那覇基地へ搬送する訓練を実施します。
- ・奄美大島に医療資材を航空機から投下する訓練を実施します。

訓練イメージ



傷病者治療



傷病者搬送



医療資材投下

⑧統合電磁波作戦訓練

統合電磁波作戦訓練は、種子島周辺海域で実施される水陸両用作戦訓練に連携して行われます。

本訓練のため、陸上自衛隊の電子戦部隊が奄美大島の航空自衛隊奄美大島分屯基地、陸上自衛隊奄美駐屯地及び笠利崎灯台にそれぞれ展開し、電波状況の確認等を実施します。

なお、本訓練では実際に電波を発射しますが、住民のみなさまの生活、民航機の運航等に影響しない周波数を使用します。

【期間】

陸上自衛隊西部方面隊

○ 奄美大島

- ・ 航空自衛隊奄美大島分屯基地：令和7年10月20日（月）～10月29日（水）
- ・ 陸上自衛隊奄美駐屯地：令和7年10月20日（月）～10月29日（金）
- ・ 笠利崎灯台：令和7年10月20日（月）～10月29日（水）

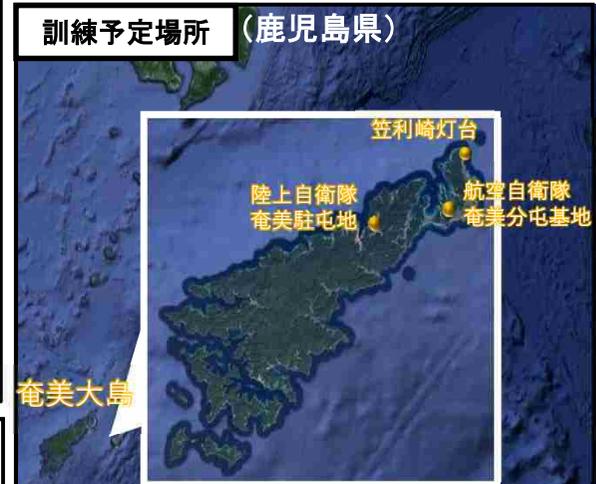
※前後約1週間の準備・撤収期間を設定

【参加部隊】

陸上自衛隊西部方面隊：約25名（車両（NEWSを含む。）×5両）

○ 奄美大島

- ・ 航空自衛隊奄美大島分屯基地：約5名（車両（NEWSを含む。）×1両）（機動展開）
- ・ 陸上自衛隊奄美駐屯地：約10名（車両（NEWSを含む。）×2両）（平素から所在）
- ・ 笠利崎灯台：約10名（車両（NEWSを含む。）×2両）（機動展開）



展開する主要装備品



※ NEWS: Network Electric warfare System
（ネットワーク電子戦システム）
電波の収集及び相手の指揮通信の無効化（低下）等を実施

⑨統合通信訓練

統合通信訓練は、通信回線を構成する訓練です。

本訓練のため、陸上自衛隊、海上自衛隊及び航空自衛隊の通信部隊が種子島及び奄美大島に展開し、通信回線を構成いたします。通信訓練においては電波を発射しますが、住民のみなさまの生活、民航機の運航等に影響しない周波数を使用します。

【期 間】令和7年10月20日(木)～10月28日(火)

※前後約1週間程度の準備・撤収期間を設定

【参加部隊】陸上自衛隊 西部方面システム通信群 約20名(車両:6両程度)

海上自衛隊 システム通信隊群 約10名(車両:3両程度)

航空自衛隊 航空システム通信隊 約10名(車両:2両程度)

【実施場所】奄美駐屯地、海自奄美基地分遣隊、奄美大島分屯基地、瀬戸内分屯地、種子島中央運動公園

